

## 新規就農者をご紹介します

今回の「農家の窓」では、平成23年度から長野県の認定就農者として、中尾・美上下地区で農業経営を開始された、お二人の新規就農者をご紹介します。お二人は、中尾・美上下地区の人・農地プランにおいても、今後中心となる経営体として位置付けられ、青年就農給付金等の支援を受けながら、営農の定着を目指しています。



### 岸 洋平さん



夫婦で新規就農をめざし、東京から移住してきました。2年間の研修ののち、縁あって紹介していただいた美上下の畑で、2011年春に就農しました。現在、1.6haの畑で約50種類の野菜と、小麦、豆を作っています。たてしなの「旬」が詰まった野菜セットを、主に都会の一般家庭に向けて、直接定期宅配しています。標高1000メートルの昼夜の寒暖の差は激しく、とくにトマトやトウモロコシが甘くて美味しいとお客様には好評です。清らかな水、澄んだ空気に恵まれたこの地に就農することができて、本当に良かったと思っています。今後も引き続き、インターネットを通して顧客層を拡大し、将来的には小麦や大豆の加工品にも力を入れて、冬の収入源を確保していきたいと思っています。



### 山口悟史さん



私は、千葉県から長野県に移住して4年目の山口悟史と申します。小さな頃から旅行などで度々訪れていた大好きな長野県。長野に来る前までは、ごく平凡なサラリーマン生活をしていましたが、農業に魅力を感じ、松本市や佐久市で農業研修を受け勉強していくうちに、農業の奥深い世界の虜になってしまいました。研修中に立科町の農地コーディネーターさんに農地や家を紹介して頂き、就農したのは今年の春。年間約50品目の野菜を育て、その時期に収穫できるものを箱詰めして販売しています。販売先はインターネットからと、知り合いのお宅に宅急便で直接お届けする個人宅配です。立科町は自然環境が抜群なので美味しい野菜が採れます。まだ、就農して2年目で栽培技術は未熟ですが、一步一步農業技術を確立し、お客さんにうちの野菜を選んでいただける様なものを作り、この立科町で営農を続けていきたいと考えております。今後ともご指導などよろしくお願い致します。

この国の  
農と食を  
伝えます。

## 全国農業新聞

週刊 金曜日発行  
月 600円、年間 7,200円 (消費税込)

- 農業者の公的代表機関である農業委員会系統組織が発行する農業総合専門誌です。購読の申込みは農業委員会へお気軽に連絡ください。
- 発行所  
全国農業会議所 東京都千代田区二番町9-8 中央労働基準協会ビル2階